

国際協力特別賞

「世界中に子供の笑い声が響き渡るように」

学校法人瀧川学園 瀧川第二中学校 3年
高田 真緒

「あるところに、とても美しい国がありました。そこには立派なお城が2つ並んで建っていました。」

そんな文章から始まる、私の大好きな絵本がある。この後、2つのお城の王様が些細な事をきっかけに、戦争を始める。いつまで経っても王様は戦争を止めようとせず、大人は子供の事をすっかり忘れ、気がつくと、自分達の子供は皆、互いの敵の兵士に取られていた。しかし、長い長い戦争が続いたある時、向こう側の子供の中に友達を見つけた男の子が友達の方へ駆け出し、抱き合った。その姿を見て、大人達は戦争を止め、国には子供達の笑い声が絶え間なく響き渡った。

72年前、日本にも「戦争」が起こっていた。今、「戦争」の残酷さを伝える人が減りつつある。そんな中、私のおばあちゃんは85歳だ。おばあちゃんは会う度に「戦争」の話をする。それだけ、頭にこびり付いているという事なのだろうか。おばあちゃんは、昔を思い出しながら話す。

おばあちゃんは名古屋で育った。女学生の時、戦争が始まり、絶望的な光景を見たと言う。始業式、皆友達に久しぶりに会い、盛り上がっていた所に警報が鳴り、焼夷弾が雨の様に降って来た。外へ出ると、友達が電線にぶら下がっていたそうだ。残酷だ。自分の友達が目の前で死んでいた。しかも、無惨な姿で。そんな光景を考えると、何も言えなかった。おばあちゃんは、「そんな事があったんだよ。これが現実。」と言う。私は、72年経って、こんな事が言えるだろうか。

ある日、テレビで、発展途上国のある子のために募金を募っているというCMを目にした。私は、おばあちゃんの話聞いた後、同じ様な事が同じ時間、同じ地球上に起きている事を、不思議に思いながらも、何か力になれないかと考えていた。でも、何を？自分に何が出来る？しかし、今日の前のテレビに力になれるヒントがある。「よしっ」。私は、2,000円募金をした。現地に行き、心に寄り添う事は今の自分には難しいが、私はこのたった2,000円に、様々な思いを託した。「病気が治りますように。」「ご飯を食べられますように。」最大の願いは、「笑顔が増えますように。」

絵本の様に、大人の勝手な感情と、事情で、何も罪のない、普段だったら笑って暮らしている子供達が、苦しみ、抑えきれない悲しみをもつ。そんな事はあってはならない事だ。今回、私はお金と言う形で子供達を助けようとスタートさせたが、これからも、自分に出来る事は積極的にやっていこうと思う。

「世界中に子供達の笑い声が響き渡りますように。」